

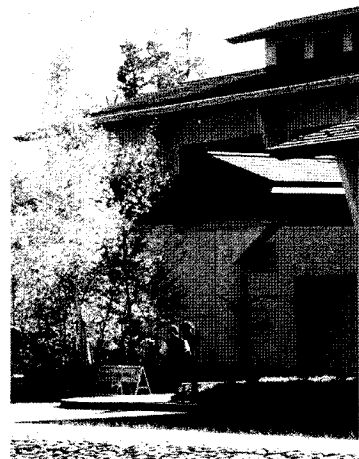


東部町文化協会報

せせらぎ

第19号
平成12年12月1日

発行／東部町文化協会
印刷／東部プリント



50周年

東部町美術会発足50周年の記念展覧会が10月6日から15日まで、文化会館展示場で華やかに開催されました。



45周年 10周年

今年45周年を迎える山びこ合唱団と、10周年目のコール・エコーが、3月5日の午後サンテラスホールで初めてのジョイントコンサート。

30周年

東部町菊花会30周年の特別菊花展が11月2日から5日まで、総合文化フェスティバルと同時に開催されました。



平成12年度 東部町文化協会の足あと

- 一月 五日 第八回新春書初め大会
- 二月 六日 第八回東部町邦楽部会発表会
- 十八日 謡曲部会発表会
- 三月 三日 お雛祭り雛人形展
- 〃 第五回書道部会展
- 五日 山びこ合唱団(四十五周年記念)
- コールエコー(十周年記念) ジョイントコンサート
- 二十六日 第二十一回東部町舞踊発表会
- 四月 十二日 平成十二年度文化協会総会(女性議長選出)
- 十五日 第二回大田区・東部町交流囲碁大会
- 六月 一日 かな書道展
- 十七日 ちぎり絵展
- 十八日 詩吟温習会
- 七月二十三日 文化協会会長杯争奪囲碁大会
- 八月 二十日 第五回カラオケ部会発表会
- 九月 十七日 陶芸部会 炎群展
- 二十八日 役員研修会(秋山郷民俗資料館他)
- 十月 六日 東部町美術会展(五十周年記念)
- 十四日 TNSジャズオーケストラ定期演奏会
- 十一月 二日 東部町総合文化フェスティバル
- 菊花部会特別展(三十周年記念)
- 三日 〃
- 四日 〃
- 五日 〃
- 十九日 第九回東部町短詩型文学祭
- 十二月 一日 会報「せせらぎ」第十九号発行
- 九日 東部町合唱祭(合唱部会発表演奏会)

日本は狭いようで広い、今年の役員研修会の目的地「秋山郷」は、そう感じさせるのに充分な、いわゆる「秘境」でした。

九月二十八日の朝七時過ぎ、サンテラスホールの駐車場に集まった役員三十五名の皆さんは、町のバスに乗り込み勇んで出発、高速道を北へと進みました。途中例年のよ



この地方の民俗資料を展示してある秋山郷民俗資料館を見学しました。ここは佐藤さんという方が独力で収集した民具などを展示している、民間個人の博物館です。

急斜面に建てられた古い農家(秋山郷では急斜面に建てられているのは普通のような)を改造した建物の中に並んでいるのは、箱膳、自在鎌、藁叩き槌、などなど。そして此処だけの名称かと思われるすっぽん(藁靴)、すっぺ(草鞋)、せなかち(いわゆる背負いこ)。はた織り機、箱枕、いろり。厳しい冬を過ごすための生活の知恵が感じられるものばかりでした。

お茶(山菜のお茶受付き)のサービスを受けてから次に見学したのが秋山郷の総合センター「とねんぼ」です。木造三階建て、山小屋風の洒落た建物ですが、ここには栄村役場の支所、郵便局、診療所、保育園、観光協会、資料館などが纏められてあり、雪に閉じこめられた村人が不自由しないような配慮が窺われました。

昼食は小沢温泉で頂きましたが、ご飯に「赤米」が出されたのは吃驚しました。原生林(?)に囲まれた深山幽谷で味わう「赤米」は、なんとなく縄文弥生の古代に誘われるような味がしました。

雨もよいの信越国境から南へ進めば、やがて青空の見える東部町。日本は変化に富んだ自然の国だと今更感じた一日でした。そして新幹線に乗れば、一時間半で銀座通りを歩ける我が東部町は、秘境を身近に感じる町でもありました。

(編集部)

うに石川公民館長の軽妙洒落な講話を拝聴しながら走ることをやがて三時間、飯山から新潟県の津南町へ出て、そこから南へ下って秋山郷に入りました。

言うまでもなくこの秋山郷は、平家の落人の集落として、また東北地方にまたがるマタギの里として有名です。一行は最初に、

総会報告

4月12日



四月十二日、中央公民館講堂で平成十二年度東部町文化協会総会が開催されました。関会長の挨拶、保科町長、高橋町議会議長の祝辞につづいて、昨年退任された佐藤利秋さん（前副会長）と柳沢芳夫さん（前監事）のお二人に感謝状が贈呈されました。そして議事に入り、茶道部会長の堀口睦美さんが議長に選出されました。事務局の宮島さん、副会長（会計担当）の福島さんによる事業報告と会計報告、そして土屋監事の監査報告と会議は恙なく進行し、新年度事業計画と予算案、解散部会の報告および新規加盟団体の紹介があつて総会は無事終了しました。

平成八年度に初の女性議長として原田京子さんが選出されてから、続いて平成十年度は上原けさえさんと、隔年交替で女性議長が選出されるようになって、本年度の堀口議長は女性として三代目となりました。東部町の文化活動における女性の皆さんの盛んな活躍がここにも窺えて、心強く感じられました。

文化協会のしおり

文化協会長 関 義豊

東部町文化協会とは・それは「生涯学習の町」東部町で文化活動を、さまざまな分野の人達が展開している会員の集いです。創立は昭和四十八年、その範囲は絵画、書道、文学、音楽から舞踊、民謡、謡曲、ダンス、工芸、茶道等々の部門に及び、その部門毎に部会として、三十一部会に構成されております。

今年には会員名簿の更新の年であり、新しい名簿によりますと、各部会所属のクラブ・サークルは二百二十、会員数は千九百六十余名の会員が登録されております。平成五年に東部町が「生涯学習の町」として、宣言されてより八年、文化協会もこの意を体し、より充実した協会の活動が行われております。ここに本年の文化協会の構成をご紹介します。

会の活動状況は年間を通じて毎週のように行われ、各部会の発表会・展示会・文学祭・研修会、実習会等が、中央公民館、文化会館、地区公民館などで開催され、最近では個人施設に於いても活発に展開されております。今後の協会のひとつの指針として、最近の社会が新しい「情報社会」として進むインターネットの情報を利用して、たとえば、クラブ・サークルの発表の場を、施設の要らないインターネットに求めてみてはと思います。期間、時間を問わず多くの人と接して、情報と活動を両輪として交流することも、将来は視野に入れて、これからの活動を、一層楽しく夢を広げてゆきたいと思っております。

○ ○ ○
 会員の皆さんのお話のなかで、協会に入会された「きっかけ」にこんなものが多くありましたのでご紹介いたします。

配偶者に誘われて…。 中高年になり何か自分の趣味が欲しくなってきた…。
 定年を迎えて第二の人生を…。 町内の人と新しい友達ができ…。
 中高年になりすこしお洒落をしてみたく…。 友人に紹介されて…。
 若い頃の憧れが実現出来るかも…。 仕事と趣味とをここで区別して…。

一つのクラブでは物足りず、目下複数のサークル活動に夢中…。
 中でもトップは、町の「いきいき生涯学習塾」を卒業したので…。 でした。

この「しおり」をご覧の方で、俺も、私もひとつ、という方は是非東部町文化会館内 文化協会事務局 まで声をかけてください。
 電話 六二一三七〇〇です。

文化協会には

こんな部会があります

- | | | | |
|----|--------|-----|--------|
| 31 | 郷土史部会 | 〃 | 高木幹男 |
| 30 | カラオケ部会 | 〃 | 小宮山袈裟幸 |
| 29 | せせらぎ部会 | 〃 | 小松信子 |
| 28 | 表具部会 | 〃 | 小林良徳 |
| 27 | 川柳部会 | 〃 | 荒木正俊 |
| 26 | 邦楽部会 | 〃 | 佐藤雄治 |
| 25 | 籐手芸部会 | 〃 | 池田久美子 |
| 24 | 文芸創作部会 | 〃 | 清野竜 |
| 23 | 棋道部会 | 〃 | 関賢一郎 |
| 22 | ダンス部会 | 〃 | 萩原剛 |
| 21 | 軽音楽部会 | 〃 | 所雅 |
| 20 | 音楽部会 | 〃 | 貢甚一郎 |
| 19 | 陶芸部会 | 〃 | 石和共子 |
| 18 | 俳句部会 | 〃 | 森泉透 |
| 17 | 短歌部会 | 〃 | 清水さとみ |
| 16 | 菊花部会 | 〃 | 松沢房視 |
| 15 | 人形部会 | 〃 | 山本フジ |
| 14 | ちぎり絵部会 | 〃 | 岩崎定子 |
| 13 | 手芸部会 | 〃 | 丸野美智恵 |
| 12 | 茶道部会 | 〃 | 阿部まさ子 |
| 11 | 華道部会 | 〃 | 小林清枝 |
| 10 | 合唱部会 | 〃 | 土屋征志郎 |
| 9 | 謡曲部会 | 〃 | 福島慎雄 |
| 8 | 詩吟部会 | 〃 | 関誠 |
| 7 | 舞踊部会 | 〃 | 滝澤貞子 |
| 6 | 民謡部会 | 〃 | 船田利明 |
| 5 | 彫刻部会 | 〃 | 近喰和夫 |
| 4 | 書道部会 | 〃 | 柳沢芳夫 |
| 3 | 写真部会 | 〃 | 宮下広之 |
| 2 | 水墨画部会 | 〃 | 保科清 |
| 1 | 絵画部会 | 部会長 | 萩原芳雄 |

総合文化フェスティバル



見て歩いて・スナップ集

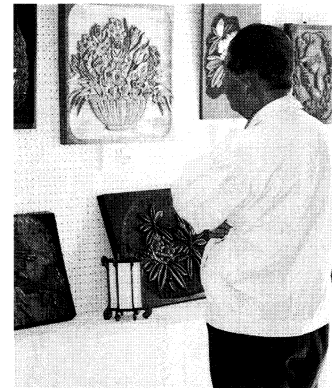
⑫ 生花のようなパン粘土作品
押し花額も併せて拝見 ▼



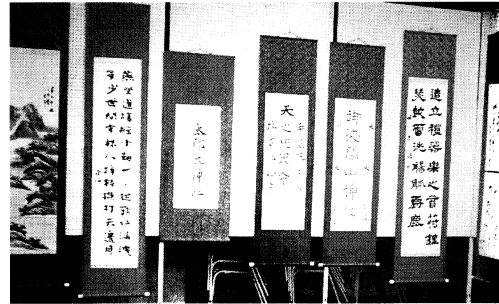
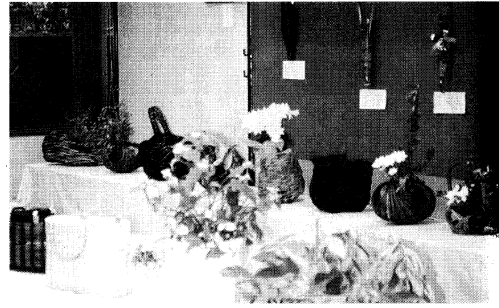
① 水墨画鑑賞中 ▲



⑪ お隣の木彫を鑑賞 ▼



② ここは藤工藝展示室です ▲



③ お隣は表具部会の作品 ▲

11月2日(木)から4日(土)まで中央公民館で第17回総合文化フェスティバルが開催されました。これは編集部員が足で集めたスナップ集。



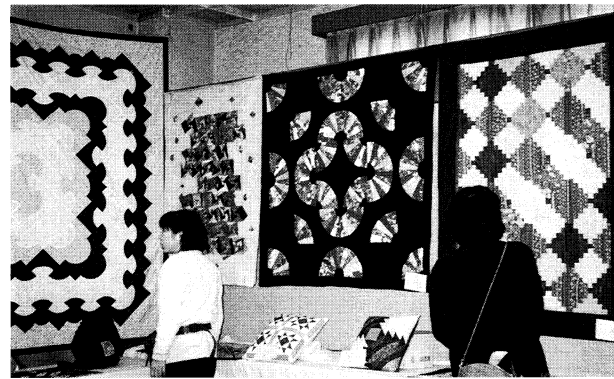
⑬ ちいさがたの家の皆さんも ▲



⑭ 絢爛! 「人形の館」 ▲



⑮ 着てみたくなりました ▲



⑳ 最後にパッチワークの大作を鑑賞 ▲
また来年を楽しみに!



㉑ さすが華道は豪華でした ▲



㉒ いい字をかくわねえ ▲



④ 町長さんこんにちは!
フラワーアレンジメントの会場にて ▲

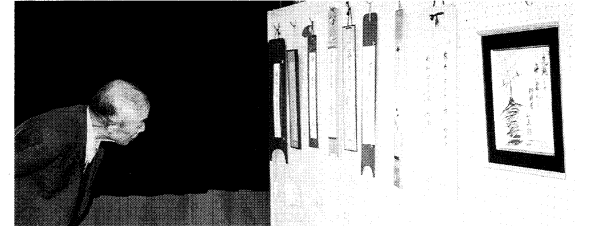


⑩ レザークラフトを鑑賞して ▲

⑤ 身障者の皆さんも参加 ▼



⑨ これが現代の陶芸なのだ ▲



⑥ これは誰の作品かな? ▲



⑦ きれいな写真ねえ ▲

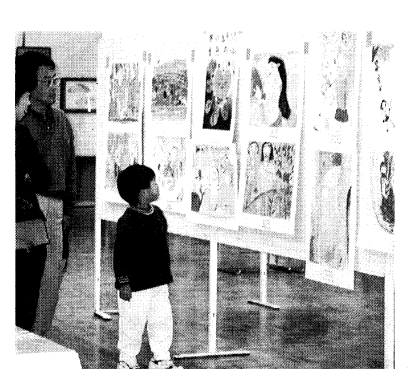


⑧ 油絵のような力作もありました ▲

⑪ 階段を上がればそこはお茶席 ▼

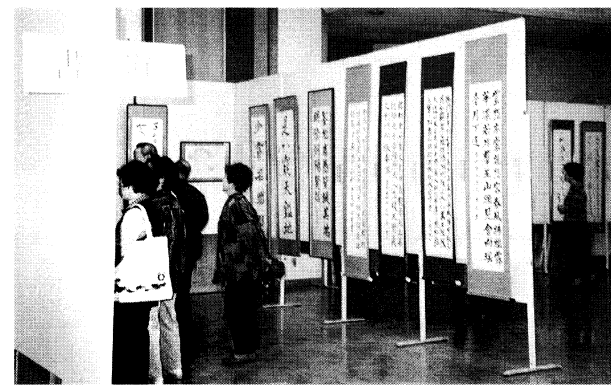


⑰ みんな上手だねえ ▲



⑱ だれがかいたの? 子供よ ▲

㉑ 大作揃いの書道部会 ▼



⑲ 車椅子で絵を鑑賞にきました ▲

部会レポート

文芸創作部会



地域の民話や伝説を語り継いでいこう、ということで発足して十年、雷電、柵津のお姫様、和の石堂の話など東部町に関する人のお話を聞いてまわり、大型紙芝居、スライド、エプロンシアターと、上演方法を変えて製作し、発表しています。

月一回の集まりでは、先生をお呼びして勉強会、お話作り、絵を描く、人形を作るなど、製作過程に合わせて行っています。民話などは語り継ぐ人が少ないため、勉強会に至るまでに一年かかってしまうこともあります。

出来上がった紙芝居などを地域の集いや小学校などで発表して、多くの方達に見て頂いております。メンバー募集中ですので、興味のある方はご参加下さい。

(文芸創作部会・かほちやの会レポート)

陶芸部会



七月八日、陶芸部会の皆さんによる陶器の窯出しを取材しました。生憎台風の影響で曇天の下、会場は熱気と緊張、厳肅な空気に包まれていました。

窯の前では、グループ「炎群」の皆さんが、講師山崎良徳先生の指示で手際良く作品を窯から出していました。以下講師先生のお話。

「私達はプロを目指していいものを創りたい。それには土を知りその土を最適に使い焼くことから始めるのです。更に自分の哲学を持つこと、それは作品を通じて自分を成長させ、更に良いものを求めていく厳しい道でもあります。だから安易な考えの人では務まらないのです。「薪入れ」は、炎を読み炎と対話しながら薪をくべていかなければならない。それは一回一回の作品が異なるので、経験を何度も積み重ねながらの毎回反省の日々でもあります。」

いつも勉強し美を追求しつづけるという講師先生の心構えは、私達の日常の暮らしでも大切なことなのだ、と裏とした気持ちになりました。取材を通じてこうした「ものづくり」をしている皆さんにお会いできたことを感謝しております。

(編集部レポート)

郷土史部会

郷土史部会は、東部町郷土史研究会によって構成されています。この研究会の歴史は古く、文化協会創立以前から町内篤学の士によって研究活動が続けられて居りましたが、協会の一部会として参加したのは近頃です。

前教育長の長岡先生や前中央公民館長の石川先生の講義を聴講したり、近郊の視察を実施したり、また町内四地区に役員が居て、年数回の役員会や全委員の集まる例会(但しこれは不定期)を開催しています。

郷土史研究の講座は図書館や女性学級でも開催されて、「我が町を知る」という活動はいよいよ盛んになっています。柵津出身の水彩画家丸山晩霞が、郷土の発展のために柵津八景を選定したり、柵津せんべいを創ったりしたことなど、興味深いお話も聞ける部会です。(編集部レポート)



私達の「雅会」は茶道部会に属する七グループのうちのひとつです。

阿部先生のご指導のもと、七人の仲間でお稽古に励んで四年目となります。わび、さびの茶の湯の世界に触れてみたいと受講しました。

人前でお茶を点てるというのは難しいことでしたが、慣れないながらも茶道具を扱ってお茶が点てられるようにご指導頂き、茶道の楽しさがわかってきました。

先生や仲間の皆さんと、一期一会和氣藹々と楽しく奥の深い茶道を学びながら、自分磨きに励んでおります。毎日が足早に去っていく中で、月二回の茶道教室は、お道具を手にしたのお点前に緊張しつつも、とても充実した一日となっております。

「二服、いかがですか」

(茶道部会・雅会レポート)

彫刻部会



東部町公民館の木彫り教室は、現在近喰和夫先生の指導のもと、四グループ(華洋会、きつき会、木友会、朴の木会)が毎月二回ほど、中央公民館で彫刻を楽しんでいます。近喰先生がこの教室の指導をされてから二十三年になり、現在三十名の会員が、獅子頭や状差し、飾板、箱物に挑戦中です。

今春「いきいき生涯学習講座」に応募された六名の方たちも、水芭蕉の飾板に取り組んでいます。慣れない手つきで彫刻刀を持つていますが、無心に板を削る音が何ともいえぬ雰囲気をもたらしています。一片の木ぎれも大切に扱っております。

農民美術・木彫りは、私達の生活を豊かに潤してくれます。皆さんもどうぞ。

(彫刻部会レポート)

集 記念の年を迎えて
特 美術・合唱・菊花

五十周年を迎えて

東部町美術会長 荻原芳雄

東部町美術会が誕生してから五十年になります。本会の源流は、丸山晚霞の出身地である旧柞津村に昭和二十四年柞津美術会を創設し、その初代会長に寺島長虎氏がなられ、そのまま町村合併により東部町美術会と継承されました。

当時会員数は十五名位で、洋画のほか農美的彫刻なども始められたようですが、次第に洋画、そのなかでも水彩画に傾いていったようであります。現在美術会会員数四十名で、まず描くことを目的に、毎月二回の例会をもって静物、風景画等の勉強をしております。

会長を務められました寺島長虎氏、飯高德喜氏、山辺甲子男氏、いずれも故人とされましたが、これら先生方の東部町を中心とした地域に、絵画への理解や愛好の精神を培った業績は極めて深く浸透していることを強く感じるものであります。

記念展には先輩諸先生方の遺作展を同時に催し、ご尽力された業績をひたすら偲びたいと思います。(五十周年記念画集の會長挨拶を要約)

三十周年を迎えた菊花会

東部町菊花会長 松澤房規

お陰様で私ども東部町菊花会は、今年で創立三十周年を迎えることができました。これもひとえに諸先輩方のご尽力と、町民の皆様方のご支援の賜と心より感謝申し上げます。

菊は奈良時代に中国より渡来したと言われていますが、今ではすっかり我が国の生活や文化に根付いています。秋ともなれば町中に菊の香が漂い、家々の庭先や軒下で

も色とりどりの花を愛でることができま

す。鑑賞菊の栽培は苦勞も多いけれども、それだけ喜びも大きいものです。手塩に掛けて育てた菊が見事に咲いた時に喜び、そして人々に観て頂き楽しんで頂くことの喜びは、菊づくり冥利に尽きます。そんな思いをこめて三十周年記念の菊花展を開催致しましたが、多数の皆様方がご来場くださいましたことは何より嬉しく、この上ない励みともなりました。どうかこれからも宜しくお願い致します。

鱗雲の彼方から

合唱指導の日に想う

白石みさよ

昔、古人は春と秋と何れ勝れると春秋の美を讀え合つたという。

夫が逝く前、山梨の美術館からの帰り道白樺林の中で紅葉の余りの美しさに「もみじ」を歌い出した。「ね、悲しいとか苦しむとかを越えた歌は無いかしら。」夫は暫くして「それは欲を越えた山とか川じゃな

べて祈りから生まれた美である。

私達の国はそういう曲は少ない。でもコーラスなら「雨よふれ、すべて許し合う者の上に、また許し合えぬ者の上に。」と歌う高田三郎の曲や「母なる大地のふところ」とか「耕して種を播く土」と歌う「大地賛頌」や「農夫と土」などには欲を越えた永劫なるものへの祈りが有ると思う。愛したい、恋しい、欲しい、そういう歌の世界も大切だけどそれを越えたものも歌い継いで行きたい、幼い頃から。としみじみ思う。

私は何年来かヨーロッパでの演奏会を聞くことが出来た。ライプチヒのオラトリオ、ミュンヘンのオペラ、ウエストミンスターやフランスのノートルダム寺院の祈りの曲、アメリカ南部の黒人靈歌など、それらはす

今日は男性合唱の練習日、皆さんはどんな永劫への祈りの歌声を聞かせて下さるであろうか。鱗雲の彼方から「透明に生きているか。」と声がする。

秋の夕ぐれはことさら美しい。

展覧会・発表会

◎書道部会 第五回の書道部会会員展が、三月三日から五日まで中央公民館で開催されました。書に種類が沢山あるように、見所も練の美しさや墨色などいろいろあります。そのようなことを頭の中に置きつつ、紙と格闘する楽しさがそのまま作品となって表現できるのです。この会場のようない場所での自分の作品を見つめつつ反省することで、自己満足に陥りがちな自分と向き合う大切な時間にもなります。書を通じて自分を少しでも磨くことができたらとみんまで思っています。

最後に、作品の展示や搬出の時、沢山の子どもさんを含む皆さんにお手伝いして頂き感謝しております。どうも有り難うございました。(書道部会)

◎舞踊部会 三月二十六日に催された発表会も、今年で二十一回となりました。この発表会を目指して、一生懸命に練習する姿は、皆生き生きとして幸せを感じます。でもその陰には私達の踊りを支えてくださる方達のいることを忘れることは出来ません。華やかに踊る私達を見守って下さる先生方、照明や音響を担当して下さる裏方さんや、応援して下さっているお客様や友人の皆さん。そして家族の協力など、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。大勢の皆様を支えられて頂いて、これまで続けてこられた部会です。これからもよろしくお願い申し上げます。(舞踊部会)

◎菊花展に受賞された皆さん

東部町菊花会創立三十周年記念の菊花展表彰式が、十一月六日隣保会館で挙行されました。

晴れの受賞者の皆さんは次のとおりです。

- | | |
|-------------|-------|
| 町長杯 | 半田 栄 |
| 公民館長杯 | 寺田 泰明 |
| 農協組合長杯 | 依田 勲 |
| 町長楯 | 後藤 房子 |
| 八十二銀行田中支店長杯 | 松澤 房祝 |
| 文化協会長杯 | 出浦 洋三 |
| 教育委員長杯 | 川上 義雄 |
| 町議会議長楯 | 祢津小学校 |
| 菊花会長杯 | 小林 孝敏 |
| 上田信用金庫杯 | 披村 隆夫 |
| 東部町商工会長杯 | 渡辺 忠重 |
| 上田商工信用組合杯 | 土屋 節男 |

◎囲碁大会で受賞された皆さん

第十一回を迎えた文化協会長杯争奪囲碁大会が、七月二十三日中央公民館に於いて三十二名の参加者により盛大に開催されました。対戦はA、Bの二クラスに分かれて熱戦を繰り広げた結果、次の皆さんが入賞されました。

- | | | |
|------|-------|------|
| Aクラス | 横山 直紀 | 本海野 |
| 優勝 | 塚田 悦郎 | 乙女平 |
| 準優勝 | 増田 宣夫 | 北御牧村 |
| 三位 | | |

Bクラス

- | | | |
|-----|-------|-----|
| 優勝 | 柳沢 久 | 伊勢原 |
| 準優勝 | 小林 和夫 | 本海野 |
| 三位 | 小泉喜与成 | 田沢 |

◎短詩型文学祭で受賞された皆さん

十一月十九日、第九回東部町短詩型文学祭の入賞者が発表されました。

晴れの受賞者の皆さんは次の通りです。

- | | | | |
|-------|--------|-------|-----|
| 短歌部門 | 町長賞 | 有賀 七生 | 栗林 |
| | 教育委員会賞 | 青木 澄子 | 西海野 |
| | 公民館長賞 | 竹内 光子 | 新屋 |
| | 文化協会長賞 | 小林 久江 | 栗林 |
| 俳句部門 | 町長賞 | 三浦 雅子 | 常田 |
| | 教育委員会賞 | 掛川 玲子 | 常田 |
| | 公民館長賞 | 橋詰 富子 | 赤岩 |
| | 文化協会長賞 | 寺島 成和 | 城ノ前 |
| 川柳部門 | 町長賞 | 野本 清魚 | 佐久市 |
| | 教育委員会賞 | 五十嵐茂子 | 海善寺 |
| | 公民館長賞 | 大日向紋子 | 東町 |
| | 文化協会長賞 | 藤井 柳昇 | 本海野 |
| 現代詩部門 | 町長賞 | 宮坂 春代 | 出場 |
| | 教育委員会賞 | 栗原 陽子 | 山中 |
| | 公民館長賞 | 関崎八重子 | 上田市 |
| | 文化協会長賞 | 横関 功一 | 上田市 |

新グループ紹介

新しく加盟された皆さんです。よろしくお願ひします。

- | | | |
|--------|--------------|----------|
| 絵画部会 | いつわ水彩画会 | 横澤義次代表 |
| 書道部会 | 美人会 | 佐藤英二代表 |
| 詩吟部会 | 聖風流東部詩吟会百合支部 | 渋谷訓子代表 |
| 手芸部会 | 押し花クラブ | 斉藤よし子代表 |
| 陶芸部会 | 自然会 | 五十嵐不二夫代表 |
| 音楽部会 | ピアノ教室スノードロップ | 斉藤三千代代表 |
| ダンス部会 | アイリス東部 | 山口 厚代表 |
| せせらぎ部会 | キャロットパン(お料理) | 白石玲子代表 |

文化会館

インフオメーション

平成十三年二月四日(日)

午後一時開演

邦楽部会発表会

主催 東部町文化協会邦楽部会

平成十三年三月十八日(日)

午前九時開演

舞踊部会発表会

主催 東部町文化協会舞踊部会

編集部より

会長白ら筆を執られた「しおり」を始め本号も多くの皆さんのご寄稿を頂きました。任期最後の「せせらぎ」を編集しながら私達編集部一同、心より感謝致します。

奥村 直(文芸創作部会) 編集での出会いで知り合った人、皆好きであったと感じた二年間でした。

田村智枝子(書道部会) 「せせらぎ」を通じて大勢の人との逢瀬を与えられ、幸運でした。

花岡 冷子(短歌部会) 二年間、大勢の方々の学習会や発表会を取材し、色々と勉強させて頂きました。

岩下千代子(短歌部会) 会員の皆様にとり取材的、確かなアドバイス頂きながら二年間貴重な体験ができました。

岩崎 定子(ちぎり絵部会)